

報告者：久木留 毅（文学部教授）

■ラフバラ大学研究拠点活動報告 No.8

6月10日(月)―11(火)

■広報事業の一環としての原稿作成および取材等  
(雑誌 Sport Medicine)

具体的な内容は、ロンドンオリンピック後の英国およびヨーロッパから見えるスポーツ界の動向として、ラフバラ大学およびその他の組織の戦略等の紹介を

オープンソースと Intelligence の一部により紹介する。連載の回数は未定。編集責任者より、何回でも可との要請を受けている。



6月13日(水)

■Ian とのミーティング(スポーツ政策情報研究プロジェクト)

ラフバラ大学のスポーツ組織について、Ian から様々な角度で話を聞き質問を行った。また、こちらからは現状の日本のスポーツ構造について、オリンピック招致決定後に大きく変わるであろうことも最近のトピックスを交えて情報提供を行った。また、スポーツ政策情報研究プロジェクトをどの様に進めて行くべきかについてディスカッションを実施した。

6月14日(木)―15日(金)

■今後の来訪者に関してラフバラ大学側と日程調整等

Sports Development Centre (SDC) の部長、副部長、その他スタッフ等と日程を調整した。また、関係者が忙しく日本側の日程がタイトである等の理由から調整するのが困難なことも多々ある。その意味からも今後は、日程等を調整するスタッフの配置が不可欠になるであろう。

6月17日(土)―6月19日(月)

■野口女史とミーティング

ロンドンにて UK Sport との MOU に関する今後の事業展開、新事業に関するブレインストーミングおよびラフバラ大学政策情報研究拠点活用のための情報交換を実施した。

■Sportcal CEO Mike Laflin 等とのミーティング

Sport Accord での話を含めてミーティングを実施した。ロンドンに JSC の事務所があることでこういった活動が展開出来る事を改めて実感した。今後に繋がるミーティングとなった。



報告者：久木留 毅（文学部教授）

## 6月20(火)

### ■UK Sport との MOU 調印式に参加

和久氏、野口氏が準備してきた UK Sport との連携協定覚書(MOU)の締結式に参加。日本のスポーツ界も世界と対等に MOU を結び進めていく時代に入ったことを実感した。大学としてこの流れをどの様に有効活用していくのかが問われる時代がそこまで来ている。

## 6月22(木)

### ■ロンドンの Oval Cricket Ground にて開催された European Sport Summit 2013 に参加。



昨日 提携式にも参加していた UK Sport Major Event & International Relations ディレクターの Simon Morton 氏もパネリストとして参加していた。トピックスとしては、メジャーイベントの招致とそのレガシーをどの様に生み出していか。



さらに、Integrity of Sport に関するものがメインのテーマであった。ただ、これら二つは、最近のカンファレンスの流行であることは間違いない。

## 6月23日(金)

### ■ Ian とのミーティング(スポーツ政策情報プロジェクト)

ラフバラ大学への来訪者および UK Sport との MOU 提携について報告。その後、今後のラフバラ大学の戦略的展開と日本の動向について情報交換を行った。

---

### ■まとめ

UK Sport と日本スポーツ振興センターの MOU 締結を含めて今後のスポーツ界の動向を考えた場合、大学の位置づけが大きな意味を持つ時代がそこまで来ている。今回のラフバラ大学への留学は、タイミング的にも最高の時に来ていることを実感している。